

明治四年

(二月)

元日 晴。

先々御式も大略ニ候へとも相済候。客中ニテ一向春の気ニも不思年、去同様也。

(二月) 二日

朝、試筆。北山ヨリ絹地頼に来。玉堂春暖ト春山瑞靄之図、外色々試筆いたし候。八ツ時ヨリ沢さまえ御手伝ニ上り候。夜三更迄。

(二月) 三日 大風。極厳寒。

朝ヨリ沢さまえ手伝に上り候。八ツ時、嫁さま御入也。御式、日暮より始り、私、しな、しけ、とも、四人也。先々済て、夫ヨリ舅姑の御式も済て、夫ヨリ御酒宴也。夜四更ニ済是迄、私共食事不致、御手伝の人々尽其通りニて、漸、豆腐汁ニテ、夜四更頃ニ食事スル。大不都合~~~~~也。

(二月) 四日 甚寒、雪。

此日、沢さま、七ツ時ヨリ、御客也。御手伝に上り候。柳原さま、外に兵部省の人物四人也。楓湖画子来り、合作などして、夜三更後に相済候。是迄、私共手伝の人々、四更迄何も不食、漸此時、湯漬食也。大不都合~~~~~也。

(二月) 五日 雨。

此夜、沢さまニテ席画、私ト楓湖也。

(二月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(二月) 七日 晴。

此朝四ツ時、沢從四位様、信州え出張致され候。此日、石山様御年酒ニテ御招れ、七ツ時ヨリ上り、大さわき、夜五更ニ臥。

\*大さわき(大騒ぎ)

(二月) 八日 晴。

朝四ツ時、帰宅。此日、杉山とみ女、晴翠来、七ツ時迄居り候。夜、輪講。

(二月) 九日 薄雪、夜、大雨也。

朝四ツ時ヨリ、殿様、撰斎、愛治郎、奥田、私、五人連ニテ摩利支天え参詣。少々雪ニテ、浅草駒若ヨリ船乗して、七ツ時、帰宅也。此夕、[広沢参儀](#)、何人とも知れぬ者ニ暗殺致され候。只一人斗ニテ忍ひ込候様子、人々うわさ也。

\*広沢参儀(広沢参議)

(二月) 十日 晴。

終日揮毫。

(二月) 十一日 晴。

扇子五本揮毫。見間城人書画帖相頼候。河野雪巖来り候。九日夜ヨリ沢様御殿裏辺あやしき者来候故、皆々[不寐番](#)いたし候。

\*不寐番(ねずのばん)

(二月) 十二日 淡雪。

終日揮毫。此日、十二月十七日出之紙包、小野さまより着いたし候。ゆは、松魚来。此夜、あやしき者ニテ、徹夜いたし候。

\*ゆは(湯葉)

(二月) 十三日 晴。

終日、絹地張し候て、放業。

(二月) 十四日 晴。

終日、絹地雛揮毫。牧三郎来。伊藤軍八来。此日、十二月十八日出書状来。姉御殿より也。南禅寺至道さまの大変申来り候。

(二月) 十五日 晴。

昼後より揮毫。朝、植村来、全紙山水、[レン落](#)得意の物、外面帖物頼みに来り候。外務省ヨリ画帖絹本二十五枚来。[朝帝](#)ヨリ御用ニテ、絹本堅物四季花卉四枚、絹本十二枚横物花鳥、又絹本十二枚横物花草物、御頼みに相来、即絹本来。実は任那国へ行候画也。夜、揮毫。此朝、三条様ヨリ姉御殿よりの紙包来、昆布、扇子着。

\*[レン落](#)(聯落) \*朝帝(朝廷)

(二月) 十六日 晴。

朝、雛終日揮毫、大てい落製ニ及候。父様、浅草え参詣。

(二月) 十七日 晴。  
雛落製。小杉直之丞来。夜、輪講。

(二月) 十八日 晴。

任那国行絹地一枚落製、今一枚にかゝる。東寧島田竜齋来。二月朔、中村楼展観書画願来候。卿様藤姫様成らせられ候。此日、京姉御殿え便スル。宮原えも。

\*卿様(外卿様)

(二月) 十九日 晴。

絹地一枚製、今一枚にかゝる。

(二月) 二十日 晴。

絹地一枚製、今一枚にかゝる。京姉御殿より至道様一件委しく申来り候。近藤来、勝見来。此夜、火。

(二月) 二十一日 晴。

絹地鶏頭落製。又木芙蓉、菊揮毫。此日、菜祐使雛取二来。

(二月) 二十二日 晴。

木芙蓉落製。展観兼画米点山水製落、書雨余双燕揮毫。此日、扇明亭来、画帖相頼候。

\*製落(落成)

(二月) 二十三日 晴。

草亭詩意北宋画揮毫、早速認。女史八人合作物、扇明亭より頼来。又書画揮毫。

(二月) 二十四日 晴。

朝兒にかゝる。

(二月) 二十五日 晴、風。

父様大原え行れ候。島屋巴女来。大悦~~~~~也。

(二月) 二十六日 晴。

沢様御一統、殿様、父さまも御同道ニテ向島梅見成らせられ候。夕方、御帰殿也。終日、私揮毫。

(二月) 二十七日 晴、七ツ時より雨。  
終日揮毫。

(二月) 二十八日 曇。  
終日揮毫。門松勝見紹介ニテ (空白) 来、画願候。朝、杉山富女来。夕方より本田来、四更迄咄し候。

(二月) 二十九日 晴。  
終日揮毫。夜、本多来。又、門松勝見来。扇子五本揮毫。餞別いたし候。明早朝、門松国元え帰られ候故、暇乞いたし候。

(二月) 三十日 晴、風。  
朝ヨリ昼迄揮毫。昼後ヨリ殿様、芝西心寺蛙合戦見行れ候。撰斎、花蹊、愛治郎、奥田、本多、御供いたし候。もはや合戦の残党百疋斗、步寄、食合いたし候。廿六日昼時、当寺中二池有、此池中二五、六百の蛙来、七ツ時迄戦候よし也。奇々妙々也。此夜、火也。

(二月)

二月朔日

朝四ツ時より殿様御出門。御供撰斎、花蹊、愛治郎、奥田也。皆々人力車ニテ両国中村楼書画会ニ行。島田竜斎会主也。席上揮毫相頼、大変ニ揮毫いたし候。七ツ時下り、御帰殿也。帰り御舟也。此日、京師姉御殿より画紛本着。

\*画紛本(画粉本)

(二月) 二日 晴。

朝廷ヨリの画帖物、極彩色十二枚落製。此日、京師姉御殿より文来。

(二月) 三日 晴。

朝廷ヨリノ画帖外十二枚分ニかゝる。三枚落製。夜、本多子来。

(二月) 四日 晴。

齋藤良菴来。画ノ義ニ付、種々相談有。外務卿様も成らせられ候。終日揮毫。絹地二枚落製。小島泰堂展観兼画頼来候。近藤真鋤来ル。此日、京師御殿より文来。此夜、火。

\*義(儀)

(二月) 五日 晴、昼時小雨、又晴。

朝より父様と同道にて駿河台頼又治郎様へ行。幸、在宿にて、宮原ヨリの御頼みの書相頼、御酒肴にて、いろ／＼咄有。夫ヨリ由島女坂下心正堂へ行、印財求メ、白富方へ行、夫ヨリ池ノハタ辺、買家探行、夫ヨリ晴湖方へ行、暫して浅草へ行、叔母さまの墓所へ参詣いたし、浅草観音へ参り、夫ヨリ鳥越三筋町西町細川林斎方へ行。あやにく留主中にて、早々人力車にて帰殿、日暮也。此夜、火。

\*幸(さいはひ) \*由島(湯島) \*印財(印材) \*池ノハタ(池ノ端) \*買家(売家)

(二月) 六日 晴。

昼後迄揮毫。殿様、沢様と御同道にて秋田屋敷へ成らせられ候。日暮て御帰殿也。八ツ時より、父さま、私、奥田同道にて、文魁堂へ印材調二行。夕方、帰殿也。姉御殿へ便スル。夜五更迄揮毫。

(二月) 七日 雨、風。

終日揮毫。小島泰堂展観書画四枚也。

(二月) 八日 雨、昼後晴。

終日揮毫。此夜、出火、浅草辺也。

(二月) 九日 晴。

浪花井上氏ヨリ頼みの画揮毫。千石子ヨリ之頼みの絹地画帖物揮毫。

(二月) 十日 晴。

昼前ヨリ浅草鳥越三筋町西丁細川林斎方へ行、印相願候。いろ／＼咄し有て、此時、柳圃家内来。幸、面会致し候。八ツ時半、赤松琴二方へ行、書画見て帰り候。夕方也。此留主中、笹本、成島来り候。赤松宅に居り候時、浅草門跡横町出火。

\*幸(さいはひ)

(二月) 十一日 雨。

早朝ヨリ、父様一騎かけにて大森梅屋敷迄、沢様御見立ニ行れ候。沢外務卿様、十一日朝五ツ時半、馬車にて御出立也。蒸気□□(汚損) 大坂□□(汚損) 成らせられ候。御見立して帰り候。絹地二枚半認ル。夜、本多潤三来。

(二月) 十二日 晴。

終日揮毫。父様、駿河台頼方へ行れ候。黄昏、帰殿。

(二月) 十三日 晴。

終日揮毫。父様、斎藤了菴方へ行レ候。八ツ時頃、渡辺源左衛門来。夜、読書、三更迄。

(二月) 十四日 晴。

十二枚絹地落製ス。此日、京師姉御殿、宮原トえ便スル。植村来。

(二月) 十五日 晴、夜雨。

朝ヨリ昼迄揮毫。昼後より細川林齋方へ行、暫時して赤松琴二宅へ行、書画見テ、黄昏、帰殿也。

(二月) 十六日 晴。

此日沢從四位様、信州ヨリ御帰りニテ、父様、追分迄、朝六ツ時下りより馬ニテ御迎ニ行レ候。私、昼時より愛治郎同道ニテ八丁堀幾波方書画之集ニテ行、揮毫。家口醸山呼ニ来、即、家口家へ行。父様も御出也。冠岳、雪山、扇明亭。暫時して高林二峰宅へ行、揮毫。黄昏、帰殿也。夫ヨリ沢様え上り、御酒肴也。夜二更ニ済。此日、京師姉小路様四ヶ切便スル。

\*四ヶ切(四ヶ日切)

(二月) 十七日 晴、又雨、晴。

此日、小田原トウリヤウ様、両国迎向院<sup>え</sup>御出開帳也。東京不残芸人出、賑々しき事也。幸、島屋新兵衛門前御通行ニテ、呼ニ来、父様、私、奥田、島屋方へ行。前橋君公も御出也。此時、忍藩人三輩来。伊藤友右衛門、外名不知。巴女浄瑠理始而聞。実に感服極至也。私も一寸席画いたし候。夕方、帰殿也。

\*トウリヤウ様(道了様) \*迎向院(回向院) \*幸(さいはひ) \*浄瑠理(浄瑠璃) \*極至(至極)

(二月) 十八日 晴。

終日、画。朝、渡辺源左衛門来候。昼時、松浦来。父様、昼後より文雄方へ行レ候。松本楓湖書画会展観物頼みニ来り候。夕方、沢様、兵部所人物尾片、小沢、三輩也。席上揮毫いたし候。

(二月) 十九日 晴。

終日、展観物揮毫。雪山来、扇面頼み候。

(二月) 二十日 晴。

終日揮毫。

(二月) 二十一日 晴。京姉御殿より紙包二ツ着、**かんさし**来。昼時迄揮毫。昼後より沢様御誘引ニテ御浜御殿之行、終日遊ぶ。日暮、帰殿也。此日、父公、万八楼え書画会ニ行レ候。此日、典、玉斎、西京より来。木曾路也。伊之助供也。  
\*かんさし(簪)

(二月) 二十二日 晴。  
朝四ツ時より**朝草法ユウ寺**妙撰尼十七回忌營候故、父君、私、典、愛治郎、島屋巴女、泛舟テ行候。御經濟、御非時後、席画揮毫ス。八ツ時下り、乗舟して帰り懸、向島の花満開也。島屋新兵衛方え送り、七ツ時、帰殿也。此夜、私、沢様ニテ一宿。

\*朝草法ユウ寺(浅草法融寺)

(二月) 二十三日 晴。  
朝七ツ半時、出門。沢様芝居行、私も同道也、**最**、舟。向島ニテ夜明ル。花如雪也。  
\*最(尤)

(二月) 二十四日 晴。  
京姉御殿より書状来。夫より早々、典、奥田、江州辺ニ至道様事ニ付、出立致し候。此日、井上金三郎来り候。夜、小火有。

(二月) 二十五日 晴。  
二峰展観物画揮毫。四季之内夏部揮毫。父君、二峰宅発会ニ行レ候。

(二月) 二十六日 雨。  
終日下凶ス。父君、中村楼書画会ニ行レ候。

(二月) 二十七日 晴。  
終日揮毫。絹本二葉花卉落製。三条殿より使来、襖六枚御頼ニ相成候。

(二月) 二十八日 晴、八ツ時後雨。  
朝、渡辺源左衛門来。昼時、井上金三郎来。後、小間物屋来。殿様御出門、撰斎、花蹊、愛治郎、捨藏**御共**也。通り筋歩行、日暮、御帰殿也。

\*御共(御供)

(二月) 二十九日 晴。

終日揮毫。三条家小襖、武陵桃源之図。

(二月) 三十日 晴、夕雨。

終日揮毫。北山絹本春秋花鳥二幅対秋山水。此日、京師姉御殿より便有。

\*二幅(二幅)

(三月)

三月朔日

外務卿様、浪花より御帰殿也。

(三月) 二日 晴。

昼前より石山様え上り、菊姫様御着御悦候也。八ツ時、帰殿也。

(三月) 三日 晴。

沢様御初節句ニテ、石山様、菊姫様、藤浪様、五条様御招、私御手伝ニ上り候。此日、島原ヲイラン道中見物ニ行候。此日、真弓、本多来。

\*ワイラン(花魁)

(三月) 四日

終日画。沢様、外務省役人六輩御招、私、席画ス。

(三月) 五日 雨。

レン落絶辟泉流山水、小絹竹深避暑、揮毫。

\*レン落(聯落) \*絶辟(絶壁)

(三月) 六日 風、雨。

扇面二葉揮毫。昼後、家口醸山書画小集ニ行。笹本幾波方え行、亦、雪山え行、亦、小島泰堂え行。

(三月) 七日 晴、夜雨。

画帖物八枚揮毫。昼後より、殿様、父君、私、捨蔵、石山家え成らせられ候。暫して日暮、御帰殿也。此日、木村源兵衛来。須田弘来。井上使来。

(三月) 八日 終日雨。

昼前より井上金三郎来、七ツ時帰宅。私、外務省よりノ画帖ニカゝル。小間物屋来。

(三月) 九日 晴。

終日揮毫。白富、紀伊国屋、従四位様来。

(三月) 十日 雨。

終日揮毫。此日、渡辺楽之助御召抱ニテ、君臣之契を結れ候。

(三月) 十一日 雨、晴。

終日揮毫、井上画帖。朝、小菅直之丞来。渡辺源左衛門来。山片菊来。廿輩余ニテ面会いたし候。近弥来、須田弘さま来、外卿様成らせられ候。近藤子も来り候。

(三月) 十二日 晴。

此日四日切ニテ京姉御殿え文出す。終日揮毫。三条様より之御襖四枚夏山水泥引。**レン**幽篁曉月、井上氏より。

\***レン** (聯)

(三月) 十三日 雨。

終日、揮毫。画帖三枚、木津煙鶴新三郎来。

(三月) 十四日 晴。

朝、井上旅宿行、暫して帰殿。画帖二枚揮毫。京姉御殿え便スル。

(三月) 十五日 晴。

画帖二枚揮毫。殿様、昼後より**亀井戸**え成らせられ候。父様**御共**也。浪花辻氏ヨリ文来。  
\***亀井戸** (亀戸) \***御共** (御供)

(三月) 十六日 晴。

朝、大島友之允来。終日かいとり下絵揮毫。近弥、外、刀屋、吉野屋来。長崎乾堂、沢さまえ来。拙、大印相頼候。又高林二峰来。

(三月) 十七日 晴。

終日揮毫。全紙米法山水、**レン**落古木竹石、外米山水賛。長崎乾堂来。暫時対語。父様、玉齋、浅草辺ニ出行、夕景、帰殿也。

\***レン**落 (聯落)

(三月) 十八日 雨。

朝、浅野西京え帰られ候ニ付、父さま、品川迄見立られ候。昼時ヨリ乾堂方へ行、良暫して、夫ヨリ両国道了開帳参りいたし、夕景、帰殿也。

(三月) 十九日

終日揮毫いたし候。此日、京姉御殿より御文来。十二日出書状也。

(三月) 二十日

終日揮毫いたし候。姉印より、此日、十六日出書状着。

(三月) 二十一日

終日揮毫。此日、対州使来。

(三月) 二十二日 晴。

昼時より殿様、**亀井戸**対州大島方え御成也。御供撰斎、花蹊、民部、渡辺伊之助也。御舟也。**亀井戸**天神え御参、亦妙見宮え御参。種々酒肴、**相逅邂**。長三州、青浦来、席書画。

日暮、御乗船也。二更半、御帰殿也。此留主中、不可徳翁来。

\***亀井戸**(**亀戸**) \***亀井戸**(**亀戸**) \***逅邂**(**邂逅**)

(三月) 二十三日 晴。

終日揮毫。此日、世間説大変。

(三月) 二十四日 晴。

終日揮毫。

(三月) 二十五日 雨。

画帖泥引、亦揮毫。京師え貴酬出。

(三月) 二十六日 晴、雨。

終日揮毫。京師より報知有。画笔来。此日、井上金三郎出立。此夜、外務卿様、馬車**クタク**大変也。

\***クタク**(**碎ケ**)

(三月) 二十七日 晴。

終日画。外務省え画帖十五葉差出ス。此日より普請始ル。

(三月) 二十八日 晴。

終日揮毫。父様、昼後、乾堂方へ行レ候。

(三月) 二十九日 晴。

終日揮毫。

(四月)

四月朔日 晴。

終日泥引。此日、大島友之丞来。白富来。指月新屋不可徳会、中村楼ニテ相催。私、不快雖不行、殿様、御舟ニテ高繩泉岳寺え成らせられ候。昼後、御出門、御帰殿、八ツ半也。

\*高繩(高輪)

(四月) 二日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 三日

昼前より不忍池弁天真景写生いたし、夫より上野黒門、観世音写、待乳山写、向島写、七ツ時過、帰殿候。

(四月) 四日

殿様、御延生日御祝いたし候。終日放業。

\*御延生日(御誕生日)

(四月) 五日 晴。

沢様、明石知事、清崎知事、招れ候。私、御手伝ニ上り候。松本楓湖、高野雪巖席画スル。夜三更半、帰られ候。

\*高野雪巖(河野雪巖)

(四月) 六日 晴、雨。

両国上総屋乾堂方へ行。他行中故不逢。夫より買物ニ行。島屋方へ行、暫して帰り候。此日、京師より文来。四日切也。

(四月) 七日 晴、夜雨。

終日揮毫。三条西家、水野真澄来、書画相頼候。此朝、乾堂来。八ツ時過、典、高橋兩人、

西京より着。

(四月) 八日 晴。

終日揮毫。四ツ切ニテ浪花井上氏え文出。

\*四ツ切(四ツ日切)

(四月) 九日 晴。

終日、絹本不忍弁天之図揮毫。扇面亭画頼に來り候。木村源兵衛□□□(虫損)。四ツ時より殿様、浅草辺え成らせられ候。御供撰齋、典、愛治郎、捨、樂之助。七ツ時、御帰殿也。

\*扇面亭(扇明亭)

(四月) 十日 晴。

不忍池落製。書画帖揮毫。水野真澄來候。

(四月) 十一日 晴。

絹本嵐山之図揮毫。此日八ツ時、地大震。此日、沢様御一統明石行也。

(四月) 十二日 晴。

右嵐山落製。横物秋花卉落製。此日、父さま、典、民部、高橋、他行。

(四月) 十三日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 十四日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 十五日

此日、尾上竹松、井戸側清吉來。

(四月) 十六日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 十七日 晴。

此日、支那国行輻表具出來、乾堂携來。遊印押。此日、浪花唯專寺え四日限文差出し候。尾上、井戸側一条也。此日より右兩人留置候。

\*輻(幅)

(四月) 十八日 晴、大風。  
此日昼後、巴女来、終日居り候。

(四月) 十九日 雨。  
支那国行画帖落款。外務省より右挨拶来。夜、詩作、五更迄。

(四月) 二十日 雨。  
扇子三本認。昼後、島屋方え君公、御供父さま、愛、典、玉斎、私也。日暮、御貴殿也。  
\*御貴殿(御帰殿)

(四月) 二十一日 雨。  
放業。真弓来。

(四月) 二十二日 晴。  
扇面三本揮毫。父様、典、玉斎、近弥え行れ候、朝より。昼過ニ帰られ候。吉野屋来。

(四月) 二十三日 終日雨。  
画帖揮毫。扇明亭来。南浜喜寿発会ニ付、画書頼候。此日、四日限ニテ西京え文出す。殿様、此日より小興校え成らせられ候。  
\*小興校(小学校)

(四月) 二十四日 晴。  
南浜展観書画揮毫。小島泰堂画頼みニ来り候。此日、福田きみ女入門いたし候。

(四月) 二十五日 雨。  
終日揮毫。此日、浪花井上氏ヨリ便有、十八日出着。

(四月) 二十六日 大雨。  
南浜会、父様、私、四ツ時より中村楼え行。実ニ大会也。終日揮毫。作州津山確堂老人、始而面對いたし候。七ツ時、帰殿。大雨不罷。

(四月) 二十七日 晴。  
半切五月懸揮毫。絹本堅物竹深辟暑揮毫。木村鳳祥画頼ニ来り候。  
\*辟暑(避暑)

(四月) 二十八日  
竹深避暑落製。水野真澄来。

(四月) 二十九日  
終日揮毫。此日、木津唯専寺より便有。

(四月) 三十日  
終日短冊揮毫。此日、高野俊斎診察、民部、病氣大ニあしく候。典、石山様え上り候。

(五月)

五月朔日 晴。

此日、殿様、堀切菖蒲御覽ニ成らせられ候。御供父様、典、渡辺也。高橋、七ツ時、帰殿。

(五月) 二日 晴。

此朝五ツ時半より、典、玉斎、伊之助出立いたし候。尾上竹松、井戸側清吉、右兩人、大坂え出立いたし候。殿様、学校え成らせられ候。

(五月) 三日 晴。

杉山直江来。西京、唯専寺トえ文出ス。藤坪公、学校え成らせられ候。

(五月) 四日

終日揮毫。学校え成らせられ候。

(五月) 五日 雨。

金地襖四枚、晴好雨奇揮毫。

(五月) 六日 晴。

西湖之凶落製。此日、小島泰堂、大城温来。

(五月) 七日

殿様御違例也。

(五月) 八日 雨、又晴。

米法山水二枚揮毫。水野真澄、雪山来。

(五月) 九日 晴。

朝、半切牡丹書画帖揮毫。朝、雪山来、昼後帰る。半切墨梅花揮毫。

(五月) 十日 晴。

越後治郎次来。此日、殿様学校え成らせられ候。昼前より父様、私、よし町よしやえ行、主人面会、暫して坂田鷗客方え行、夫より滝和亭え行、日暮、帰殿候。夜、吉野屋来。

(五月) 十一日

昼前より牛込山形え行。父様と同道也。八ツ半時迄居り、夫ヨリ帰り懸、石山様え寄、早々七ツ時、帰殿候。

(五月) 十二日 晴。

終日揮毫。田中誠太郎来。此夕、小島泰堂方え行、夫より所々買物いたし、帰殿候。

(五月) 十三日

朝、父様、騎馬にて大原家え行レ、途中落馬、左手筋違、帰殿。早々筋骨違療治え行レ候。中々大変也。此朝、支那え持行書画帖認。

(五月) 十四日

終日揮毫。近藤氏来。モミ療治師来。此日、四日切にて、姉家え文出ス。外二十一日限にて合羽包出ス。

\*モミ(揉)

(五月) 十五日 雨。

此日、沢様御一統、招魂社え競馬見ニ成らせられ候。御内殿様も成らせられ候。高橋御供也。島屋新兵衛来。表具屋来。殿様御帰殿、七ツ時過也。

(五月) 十六日

終日揮毫。

(五月) 十七日

沢様御一統、招魂社花火見ニ成らせられ候。殿様も御同道、私、高橋、御共也。小沢方え成らせられ候。夜四更、御帰殿也。

\*御共(御供)

(五月) 十八日

大雨風終日不止。終日揮毫。夜通し大風。

(五月) 十九日

大風雨、終日不止。終日揮毫。

(五月) 廿日 晴、又雨。

扇子六本、書画帖物九枚揮毫。

(五月) 廿一日 雨、又晴。

朝、水野大助来。西野屋来。昼後、門跡え参詣、放業。

(五月) 廿二日 晴。

殿様、学校え成らせられ候。小川来。対州楠氏来。父様、私、渡辺え病人見舞二行。木村良輔方え行、他行中。此日、西京より十六日出書四日限着。川留にて二日滞候。

(五月) 廿三日

終日揮毫。此日、西京姉御殿より便有。此便り候当月十七日夜より十九日迄、大風、御庭大木皆々手折、屋根瓦飛候よしにて、大あれ也。大坂、兵庫辺大あれ、大蒸気二艘、小蒸気三艘、外二百七十艘大われ、浜土蔵など尽小われ候。大坂川口にて千石余之船入込、橋はふちやふれ、先年つなみ同様也。

\*手折(倒れ) \*大われ(大破れ) \*小われ(小破れ) \*ふちやふれ(打ち破れ)

\*つなみ(津波)

(五月) 二十四日

終日揮毫。此日、京師え文出ス。此朝、杉山晴翠来、昼飯して帰り候。

(五月) 二十五日

扇子三本、半切三枚揮毫。此夕方より島屋方え行、夜四ツ時、帰殿候。

(五月) 二十六日 晴。

朝四ツ時前より殿様、王子稻荷え御参詣、御共ニ撰齋、私、高橋也、人力車。王子扇屋にて御昼飯。よほど長く遊ひて、御帰りは八ツ下り也。此日、杉山とみ来候。

\*御共(御供)

(五月) 二十七日 晴、雨。  
書画帖揮毫。扇明亭来。

(五月) 二十八日 晴。

此日、八ツ半過より両国川ひらき、沢様御一統成らせられ候。こなた殿様も御誘にて、私御供いたし候。舟二艘にて中村楼へ行。此時、津山雀堂様、田安様、紀陵様も御出也。三更頃迄花火沢山、舟も大そふ出候て、中々賑々しき事也。御帰りのせつ、少々雨。

\*川ひらき(川開き) \*津山雀堂様(津山確堂様)

(五月) 二十九日

終日揮毫。

(五月) 三十日

終日揮毫。

(六月)

六月朔日

終日揮毫。此日、西京より十六日出合利包着致し候。青山繁治郎朝鮮国より便有。

\*合利(行李) \*青山繁治郎(青木繁治郎)

(六月) 二日

終日短冊揮毫。伊藤軍八来、暫咄して帰られ候。

(六月) 三日 晴。

朝七ツ時より殿様学校え成らせられ候。御供父様、高橋、捨藏也。此日は東京府知事御吟味ニ成らせられ候也。此日、土用入也。

(六月) 四日 晴。

終日法帖揮毫。此日、京師ヨリ便有。

(六月) 五日

京師姉御殿より史記御本、外ニ御着用類合利包着致し候。朝ヨリ殿様、三条様え暑中ニ成らせられ候。夫ヨリ学校え成らせられ候。私、四ツ時ヨリ、三条様え暑中ニ上り、御昼飯戴、八ツ時ヨリ人力車にて石山様え暑中ニ行。暫して七ツ時ニ帰殿いたし候。

\*合利(行李)

(六月) 六日

朝五ツ時ヨリ門跡阿弥陀堂ニテ、先妣三回忌相嘗候。三部経勤、殿様、父様、私、愛治郎、高橋、参詣いたし候。昼時、相濟候。

(六月) 七日

此日、**四ツ**限ニテ書状京師え差出し候。

\*四ツ(四ツ日)

(六月) 八日

此日、七ツ時ヨリ殿様、神事御見物ニ成らせられ候。御供父様、私、高橋也。私、右の手少々いたみ候故、福田え行候処、留主中ニテ、暫して帰り、夫ヨリ処々見物ニ歩行いたし候。中々賑々しき事也。日暮て御帰殿也。

(六月) 九日 晴。

此日、三条様ヨリ御使来候て、未刻ヨリ御招かれ候。即、未刻ヨリ参殿いたし候。御客、拳正寺大門様、ダイコ様、同御母公様、花園様、御後室様也。御席画いたし候。夜一宿。

(六月) 十日

朝四ツ時、帰殿いたし候。殿様御所勞ニテ学校御休也。此日も福田え療治ニ行候。此(日)、**合利**包西京行、田中誠太郎え**相事**伝候。

\*合利(行李) \*事伝(言伝)

(六月) 十一日 極々暑

此日も福田え療治ニ行候。

(六月) 十二日 極々暑

此日も福田え療治ニ行候。

(六月) 十三日 極々暑

此日も福田え療治ニ行候。

(六月) 十四日 極々暑

終日写し物いたし候。西京ヨリ四日限便来。私、手もよほど相直り候。

(六月) 十五日 同。

此朝ヨリ沢様御一統、明石屋敷え神事ニ成らせられ候。こなた殿様も御同道也。父様御共也。夜、高橋御迎ニ行候。三更ニ御帰殿也。

\*御共(御供)

(六月) 十六日 晴、極暑。

朝五ツ時より父様、大原家え行れ候。捨蔵連、人力車にて、此行かけ、橋の詰にて人力車横ニ帰り、父様、右の手傷、昼時帰られ候。

\*帰り(覆り)

(六月) 十七日 晴、同。

終日揮毫。横川夫婦、発会ニ付、頼来り候。

(六月) 十八日 晴。

此日、京師え暑中見舞書状出ス。終日写し物する。此日、殿様学校にて、中学校ヨリ講義吟味の人来り候て、講訳被遊、甲御取ニ相成、即、扇子三本御褒美也。

\*講訳(講釈)

(六月) 十九日 晴、同。

終日写し物いたし候。

(六月) 二十日 晴、同。

終日写し物いたし候。此日、京師ヨリ便有。石山様、弘来り候。

(六月) 二十一日 晴、大極々暑。

朝、風早様成らせられ、暫して御帰り也。

(六月) 二十二日 晴、同。

此日、西京え便する。此夕、沢様より御頼みにて、巴女来、義太夫かたり候。夜三更半過ル。こなたにて一宿いたし候。

(六月) 二十三日 大暑、晴。

終日揮毫。

(六月) 二十四日 大暑、晴。

終日揮毫。此日、八丁堀高林二峰宅ニテ書画追善小集御坐候。父様、私、行候。日暮て帰

り候。

(六月) 二十五日 朝、誠ニまねの様ニ霧雨一寸降、即止。  
終日、外務省ヨリ御頼みの下図作ス。

(六月) 二十六日 雨。  
朝五ツ時前より、雨中、不忍池別当所ニテ孤山亭追善会御坐候故、父様と私、人力車ニテ行。実ニ此日は珍らしき雨也。終日降候。八ツ時ヨリ帰り懸、小菅方え寄、暫して人力車ニて帰殿、七ツ時也。

(六月) 二十七日 晴。  
終日揮毫。少々暑気、漸すゝしく様にて、少々は凌よく相成候。

(六月) 二十八日 晴。  
終日、外務所より頼みの下図作ス。

\*外務所(外務省)

(六月) 二十九日 晴、暴風。  
終日揮毫。此日、外務省え下図差出し候。

(七月)

七月朔日 晴、暴風。  
終日写し物。

(七月) 二日 晴、暴風。  
終日写し物ス。

(七月) 三日 晴。  
終日写し物、下図作ス。

(七月) 四日 晴。  
終日、四季山水揮毫。

(七月) 五日 晴。

終日、四季山水揮毫、落製ス。

(七月) 六日 晴。

朝、門跡え参詣。此日、君上、品川海晏寺え被為成候筈、風ニテ御止、押上萩見ニ御船ニテ成らせられ候。昼時、小梅小倉菴ニテ御昼飯也。右押上萩寺披却シテ不御坐候よしニテ、向島牛ノ御前え御参也。父様、私、中林清淑方え行、暫時咄しテ帰り候。夫ヨリ御乗船、隅田川辺風景、東京第一也。七夕祭り每家ニ立る笹、実ニ見事也。八ツ時半過、御帰殿也。御供撰齋、私、愛治郎、高橋也。捨藏、守室。此日、御留主中、大倉とし女御機嫌伺ニ上り候。

\*披却(破却)

(七月) 七日 晴、夜三更頃雨。

此日、御旅中ながら、先々御式も相済て、浪花井上氏より書状着。越後細山雪山来。種々咄し有。夜、私、沢様ニ而三更過迄遊ぶ。

(七月) 八日 雨、八ツ時大雨。

井戸掘、速ニ水わき出候也。細山雪山帰国ニテ揮毫物頼まれ(候)故、取二来、且、暇乞いたし候。夕方七ツ時ヨリ大風雨、終夜不止。

(七月) 九日

夜明てヨリ大雨暴風ツナミニテ、人家、樹木、夥しくタヲレ、水、此方は人間の腰切迄水来り候。ホテル辺ヨリ人々逃て来り候。人々実にくあわれく至極也。漸八ツ時、少々風治り候。所々方々人失し、人家たをれ夥敷候。此日、京師え文出す。

\*ツナミ(津波) \*タヲレ(倒レ) \*たをれ(倒れ)

(七月) 十日

終日、九条様法帖揮毫。

(七月) 十一日 晴。

朝五ツ時過ヨリ父様ト私、同道ニテ品川海晏寺真写ニ行。此道スカラ、所々海辺の家ハ尽風ニテ吹タヲレ候。海晏寺も大失し、大樹、楓もタヲレ、大アレ也。先々写して、帰殿、昼過也。此日、京御殿より書状着。此日、京御殿え書状出す。

\*タヲレ(倒レ) \*タヲレ(倒レ)

(七月) 十二日

朝、大島友之丞、君公御供ニテ、此度帰京致し候て参り候。

(七月) 十三日  
(コノ日、記事ナシ)

(七月) 十四日  
朝、対州君公、沢様え来り候。此日、御用召ニテ沢外務卿様御参り候処、免職仰蒙られ候。

(七月) 十五日 晴。  
此日、御祝も御するくくと相済候。昼過より沢様ニテ浄留理御坐候て、巴女初外四人太夫来、日暮過迄。私、夜一更二帰殿候也。  
\*浄留理(浄瑠璃)

(七月) 十六日 晴。  
朝ヨリ殿様 御供撰齋、高橋也、方々え御礼ニ成らせられ候て、夕景、御帰殿也。

(七月) 十七日 二百十日 晴天。  
外務省画帖一枚揮毫。細川光竜夫婦、会の張出し頼みに来り候。

(七月) 十八日  
風邪ニテ臥故、放棄。

(七月) 十九日 晴。  
風邪未醒。須田弘、西京(え) 帰られ候暇乞ニ来候。此日、画帖揮毫。

(七月) 二十日 雨、雷。  
此日、京師え書状。須田氏托ス画帖揮毫ス。

(七月) 二十一日 晴。  
画帖揮毫。八ツ時、父様卜同道ニテ門跡え参詣。夫より日影町常盤屋え参詣、日暮テ帰殿。  
\*参(詣(ママ))

(七月) 二十二日 晴。  
画帖揮毫。八ツ時、父様卜同道ニテ門跡え参詣。又、此寺中、寺え参詣ス。七ツ時、帰殿。  
京師え書状出ス。鶴沢喜市来ル。

(七月) 二十三日 晴。

終日揮毫。

(七月) 二十四日 晴。

島田竜斎来。此日、八ツ半時より父様、私、愛治郎、捨蔵、殿様御迎ひに参り、[あたこえ](#)上り、暫時納涼して御帰殿、七ツ時也。此留主中、[骨棠](#)加藤画頼みニ来り候。

\*あたこ(愛宕) \*骨棠(骨董)

(七月) 二十五日 晴。

絹本画帖四枚、唐紙画帖二枚、扇子二本揮毫。此夕、沢様、異人來客ニテ、私御手伝ニ上り候。外ニ四曲御坐候。退客三更也。私帰殿、四更也。

\*四曲(四客)

(七月) 二十六日 晴。

島田来り候。尽落款いたし候。八ツ時より門跡え参詣、七ツ時、帰殿也。

(七月) 二十七日 晴。

終日揮毫。八ツ時ヨリ門跡え参詣、七ツ時過、帰殿。

(七月) 二十八日

終日揮毫。八ツ時、門跡え参詣。

(七月) 二十九日

兼画山水揮毫。

(七月) 三十日 風、雨。

終日揮毫。京師御殿より書状来。七月十九日、前田清六死去のよし申来り候。此日、対州公来られ候。暫して帰られ候。

(八月)

八月朔日 晴。

御するくくと御式も相済候。此日、殿様、京橋辺迄成らせられ候。御供不残、捨蔵御留主番也。

(八月) 二日 晴、小雨。

朝ヨリ父様、私、愛治郎、三輩ニテ、牛込山形へ行。鳥羽觀世音、目白不動え参詣いたし候。夫ヨリ山形ニテ八ツ半時迄遊ぶ。七ツ時、帰殿。

(八月) 三日 雨。  
終日揮毫。

(八月) 四日 晴。  
終日揮毫。此日、七月三十日出書状、京姉御殿より着。宮原よりも書状来。扇明万助来。本多潤三、同陽也、加藤来客。

(八月) 五日 晴。  
昼後より、私、三条様え上り候。姫君様十九日御死去故、御悔ニ上り候。万里家、岸善兵衛、文雄来。京師え消息ス。

(八月) 六日 彼岸入 晴、又雨。  
絹本豎物四季花卉揮毫。門跡え参詣。

(八月) 七日 晴。  
門跡え参詣。水野真澄来。

(八月) 八日 晴。  
朝ヨリ於玉ヶ池菊池養斎方へ行。暫時咄して帰、夫より下谷小菅直江方へ行、亦奥原晴湖方へ行。大沼枕山方へ行、良暫咄して、亦関雪江方へ行、村上豊祖方へ行。此時、佐藤逸斎、杉陰来り候。日暮、帰殿也。

(八月) 九日  
此日、少々所勞、夜中腹痛。八ツ時より扇明亭より翠袖配扇子廿五本頼来り候。十五本斗揮毫。

\*八ツ時(より(衍))

(八月) 十日  
所勞なから扇子揮毫ス。夜、大腹痛ニテ徹夜いたし候。夜四更ニ小川え薬取ニ行。大困雜也。

\*大困雜(大混雜)

(八月) 十一日

夜明て、漸、相治り候。此朝、扇面落款いたし候。本田陽也来。石山様御文持参。賢蔵、須田、ミツキ同様也。

(八月) 十二日

此日、私、**からた**大おとろへ、終日臥。

\*からた(体)

(八月) 十三日 雨。

終日揮毫。

(八月) 十四日 晴。

終(日)揮毫。扇子八本、半切二葉也。夕方、加藤来。此日、渡辺源左衛門来。

(八月) 十五日 晴、夜雨。

終日、揮毫。半切四枚也。殿様御所勞ニテ、学校御休也。島屋新兵衛来。此夜、無月。

(八月) 十六日 雨。

絹本豎物揮毫。殿様御所勞ニテ御引籠也。此日、三日出書状、京師より来、山本氏五日出立のよし申来り候。本田陽也来。小川氏来。夜、月清光、十分之晴也。

(八月) 十七日 晴。

終日揮毫。父様、浅草え行れ候。殿様、御所勞ニテ学校御休也。三木光齋、扇明亭来、会張出頼ニ来り候。対州大島使来。唐紙二十枚画相頼候。小川子来。

(八月) 十八日 雨。

終日揮毫、絹本豎物秋声図。本田陽也来。殿様、学校不参、御書遊し候。石山様御使村瀬清来。此日、京師御殿より十四日出書状着。

(八月) 十九日 晴、又雨。

殿様、出学あらせられ候。私、終日揮毫。加藤画頼みニ来り候。此夕方、山本坦子、梅作着致され候。

(八月) 二十日 雨。

終日揮毫。殿様、学校え成らせられ候。御帰殿、暮六ツ時。雨又雷。此日、三日限京師え報知ス。

(八月) 二十一日 晴、又雨。

昼前ヨリ翠袖書画会ニ行。父様、私、巴女、花山也。揮毫。七ツ時、帰り、福田え寄、暫して日暮ニ帰殿也。此日、京師え報知ス。

(八月廿二日、廿三日、日記ナシ)

八月廿四日 雨。

昼時、石山様え御襖揮毫ニ上り、此日は不揮。

(八月) 廿五日 雨。

此日、御襖揮毫。

(八月) 廿六日 雨。

終日揮毫。

(八月) 廿七日 雨。

終日揮毫。

(八月) 廿八日 晴。

終日揮毫。夕景、帰殿、人力車ニテ。

(八月) 廿九日 晴。

早朝ヨリ石山様え上り 人力車也、早々揮毫。

(九月)

九月朔日

終日揮毫。此日、沢從四位様成らせられ候て、此度、從三位様箱根湯治ニ成らせられ候ニ付、私御供仰付られ候よしにて、先々帰殿致す様仰せられ候故、夕方帰殿ス。五日御出立の御つもり、御願出しニ相成候。

(九月) 二日

早朝ヨリ通り辺父様ト同道ニテ調物いたし、即石山様え上り、揮毫。

(九月) 三日

終日揮毫。

(九月) 四日

終日揮毫。

(九月) 五日

終日揮毫。いまた御願御聞濟ニ不相成候故、御延引也。御襖三組出来。

(九月) 六日

昼時ヨリ帰殿。此日、殿様石山様へ成らせられ候。私、水野様紹介画餞紙二枚、白縮緬帛紗花卉之類、揮毫。

\*画餞紙(画賤紙)

(九月) 七日

放業。

(九月) 八日

此日、御願御聞濟ニ相成候て、弥十日御出立御治定也。

(九月) 九日 雨。

御祝、御するく済ませられ候。

(九月) 十日 雨。

朝、雨中ニテ御見合のうち、やはり御出立の御よしニテこしらへいたし、五ツ半時、猪名川と申蒸気御乗込ニテ、四ツ半時、泛舟、御着一字半也。御出門、雨晴、弥快晴、浪平ニテ殊の外舟中大静也。横浜ニテ御昼飯也。横浜は御歩行也。夫ヨリ駕ニテ金沢宿迄、御着暮六ツ時也。月晴光。東屋御一泊也。

\*こしらへ(拵へ) \*晴光(清光)

(九月) 十一日 晴。

朝五ツ半時、東屋御出立。夫ヨリ金沢金亀山九覽亭ニテ八景眺望。主寺来。文人大好き。種々書画相見せ、暫咄して、夫ヨリ遊行、鎌倉大塔宮拝して、八幡宮鳥井前角屋え御着也。昼半時也。御昼飯遊し候て、鶴岡八幡宮え御参詣。所々名区見物して、御帰り夕景也。旅宿、富田庄三郎。夜、小襖金地四枚、松柏千年之図揮毫時、少し雨、暫して晴光。

\*主寺(住持) \*鳥井(鳥居) \*昼半時(昼飯時)

(九月) 十二日 晴。

朝五ツ時、御出立也。所々見物、大仏、浄泉寺、弁慶腰越状、椀なそ宝物見物して、名勝真写。六浦の浜、腰越の真景、実にく奇々妙々也。江島の駅え御昼前御着也。御旅宿、江戸屋忠五郎也。夫ヨリ山え見物、弁天社参詣、宕見物、実ニ赤辟も及ぬ風景也。莪々岩山幾千丈、下は波打きは二て、ひろキ事、幾千万里也。実にく妙々也。客舎の月、山間名月江上清風、実此事也。此日、上総国木更津駅小谷屋善平ト申人、不斗途中ニテ私真写

を見て、同宿して、扇子画願ひ候。此日は日蓮宗祖師え参詣の人々ニテ大賑々しく候。夜三更後、出火。

\*岩(窟) \*赤辟(赤壁) \*菘々岩山(峨々岩山)

(九月) 十三日 晴。

朝六ツ半時より江島浜頭ヨリ御乗船也。天晴、浪平也。少々追手風ニ候処、追々風ひとく山の如キ浪吹かへし々々実ニ々々驚々、漸昼時、十八里灘無事ニ熱海の浜え着。此着船の時、浪立て一生懸命也。夫より不二屋吉右衛門え御着也。温泉入湯ス。夜、雨。

(九月) 十四日 雨。

此日昼後、湯源沸湧見物ニ行。実ニ盛ニテおそろしき者也。夕、雨後月、実晴光也。

\*おそろしき者(おそろしき物) \*晴光(清光)

(九月) 十五日 晴。

昼後より魚見山絶頂え登臨、此景真写致し候。

(九月) 十六日 雨。

終日不出、入湯ス。

(九月) 十七日 雨、雷鳴ス。

同断。

(九月) 十八日 晴。

熱海村見物、山歩ス。

(九月) 十九日 晴。

終日不出行、入湯ス。

(九月) 二十日 晴。

朝六ツ半時、御出立。御昼、江ノ浦。此日、道程五十丁八里。七ツ時、小田原駅鶴屋ニ御着、御一泊。此日道中山々秋色不入詩園景色、又海辺ノ景も殊更也。所々真写ス。

(九月) 二十一日 晴。

朝五ツ時、小田原出立。此道中も好風景也。五ツ半時、塔ノ沢福澄屋山澗楼ニ着、入湯ス。昼後ヨリ松露ヶ滝見ニ行。一里行テ大平台姫ノ水汲テ帰宅。山澗楼ニ一泊。

\*福澄屋(福住屋)

(九月) 二十二日 晴。

昼後より塔ノ峰ノ阿弥陀寺え登り、此寺ニテ暫休息ス。夫ヨリ帰宿、亦一泊。

(九月) 二十三日

此日も滞留。昼後、白滝見物ニ行。

(九月) 二十四日 晴。

朝六ツ半時、出立。小田原鶴屋、御昼。御泊り、大磯石井源左衛門也。七ツ時下り、御着也。

(九月) 二十五日 晴。

朝六ツ半時、出立。七ツ時、戸塚江戸屋御泊り也。

(九月) 二十六日 晴。

戸塚、朝六ツ半時御出立。川崎不二屋、御昼也。大森梅屋敷、小休。七ツ半時、御帰殿也。留主中、京姉御殿ヨリ文三度来。浪花辻氏より文来。前橋星隼太、東着ニテ、辻氏ノ文托され候よし也。越後細山雪山書来。

(九月) 二十七日 雨。  
放業。

(九月) 二十八日  
終日揮毫。

(九月) 二十九日  
終日揮毫。

(九月) 三十日  
此日、京師へ文出す、四日切也。扇子箱、十二日限ニテ差出し候。

(十月)

十月朔日

終日揮毫。

(十月) 二日 晴。

昼後、私、三条様え参殿いたし候。贈右大臣殿十三回忌御正當御見舞ニ上り候。暫時、玉井子卜対談。夫より石山殿え上り、暫シテ帰殿、夕景也。

(十月) 三日

終日揮毫。

(十月) 四日

終日揮毫。

(十月) 五日

終日揮毫。

(十月) 六日 雨。

終日揮毫。

(十月) 七日

終日揮毫。

(十月) 八日

終日揮毫。八ツ半時より殿様 御供撰齋、私、愛治郎、通り辺え遊行。夕景、御帰殿也。

(十月) 九日 風、雨。

終日揮毫。此日、東京府より明一字出頭之赴、申来り候。

\*赴(趣)

(十月) 十日 晴。

此日一字、殿様御参内在らせられ候。沢從三位様御同道也。八ツ半時、御帰殿也。七ツ時前より殿様通り辺え成らせられ候。撰斎、私、愛治郎御共也。夕景、御帰殿也。夜、詩作、読書、五更迄。

\*御共(御供)

(十月) 十一日 晴。

終日揮毫。殿様、両国辺え成らせられ候。夕景、御帰殿也。御共父様、山本、愛治郎也。笹本幾波来。

\*御共(御供)

(十月) 十二日 晴。

朝ヨリ父様、私、梅作江戸橋辺え調物二行、八ツ時、帰殿候。

(十月) 十三日 晴、夕ヨリ雨。

終日揮毫。朝、一柳從五位家從武藤駕衛来。別從五位殿東着告来り候。此日、京師御殿より九日出三日限、着。夜、詩作、四更半也。

\*別從五位殿(即從五位殿)

(十月) 十四日 晴。

終日画。此夜、沢様え上り候。一更後二帰殿。此日、姉御殿伏田便スル。大坂辻氏えも便スル。各十二日限也。夜、詩作、三更半也。

(十月) 十五日 晴。

朝、長丸様御所え御参り二付、御見立に上り候。十一字、帰殿候。終日画。父様、加藤千

浪方え行れ、日暮御帰殿也。夜四更二臥。

(十月) 十六日 雨。

朝、**太職官**御神事也。昼後より君公 撰齋、花蹊、山本、八丁堀笹本方小集ニテ成らせられ候。席上揮毫ス。支那人王惕齋来候。七ツ時半過、御帰館也。夜四更半二臥。此夜、九藤敬齋画頼に來り候。

\*太職官 (大織冠)

(十月) 十七日 晴。

襖四枚揮毫ス。福田新齋来。父様、一柳え行レ、又麻布え行レ、日暮御帰殿也。夜、詩作、三更二臥。

(十月) 十八日 晴。

絹本豎物富貴天香揮毫。父様、浅草え行れ、日暮御帰殿也。夜三更二臥。

(十月) 十九日 晴。

殿様、御出学也。父様、私、梅作連テ大沼枕山方へ行、暫シテ帰殿。日暮也。此日、築地門跡明覚寺来り候。此夜、詩作。

(十月) 二十日 雨。

公、出学。父様、千浪え行レ候。奥山、金岡来、暫談ス。又本多陽也来、同友人来。夕、私九藤え行。留主ニテ不逢。夜三更二臥。

(十月) 二十一日 雨。

終日揮毫。長谷川源兵衛来。

(十月) 二十二日 晴。

終日揮毫。扇子十二本揮毫。木村鳳祥来。島原藩来。此日、京師より報知有。此日、東京府より二十四日宮内省え出頭申来候。

(十月) 二十三日 晴。

此日、島原人来。父様へツイ河岸え家見ニ行れ候。私、八ツ時より万里小路様え上り、常徳院さまえ御めニかゝり、七ツ時過ニ帰殿也。

\*へツイ(竈) \*御め(御目)

(十月) 二十四日 晴。

此朝、島原人来、国元え出立ニ付、御暇乞ニ上り、殿様御对面也。書面相願候。十一字より殿様従三位様御同道にて宮内省へ御成也。御馳走也。御上御前ニテ御酒御戴ニテ、種々御学文御勉強之事御申渡しニ相成候。

(十月) 二十五日 晴。

朝ヨリ父様ト同道ニテ千浪方え行。此日、稽古日ニテ終日遊ぶ。日暮、帰殿。

(十月) 二十六日 晴。

終日揮毫。

(十月) 二十七日 晴。

終日揮毫。

(十月) 二十八日 雨。

終日揮毫。

(十月) 二十九日 晴。

終日揮毫。経師屋来。亦扇面亭来。此日、姉御殿へ寄書。此夜、敬齋、平戸黒川来。

\*扇面亭(扇明亭)

(十一月)

十一月朔日 晴。

昼後、頂山雅之丞、朝田豊三郎来。詩作、酒肴、七ツ時帰り候。此夜、銀座二丁目富田方へ行。父様卜同道也。二更二帰殿。

\*頂山雅之丞(須山雅之丞)

(十一月) 二日 晴。

終日揮毫。

(十一月) 三日 晴。

終日揮毫。

(十一月) 四日 晴。

終日揮毫。此夕、大坂万福寺来。

(十一月) 五日 晴。

終日揮毫。

(十一月) 六日 晴。

朝七ツ起、三丁目行、一更前ニ帰殿。此日、留主中、木村鳳祥、支那人楊齋、笹本来。

(十一月) 七日 晴。

揮毫。支那人王楊齋、宝森来、珍談。揮毫。

(十一月) 八日 晴。

終日揮毫。父様、野々宮様へ行レ候。昼後、御帰殿也。

(十一月) 九日 晴。

終日揮毫。父様、西新門跡様御迎ひニ行レ候。昼後、御帰殿也。高橋二峰来。

\*高橋二峰 (高林二峰)

(十一月) 十日 晴。

絹本横物揮毫。此日、京姉御殿より便有。父様、加藤千浪方へ行レ、日暮御帰殿也。夜三更迄夜学。

(十一月) 十一日 晴。

朝、門跡え参詣。此朝、平戸黒川来。十二字後ニ帰候。揮毫。八ツ時、門印え行、七ツ時帰殿。夜、詩作、五更迄。

(十一月) 十二日 晴。

終日揮毫。華頂之臣渡辺来。此日、京師え報知。夜三更迄詩作。

(十一月) 十三日 晴。

朝、人力車ニテ大沼枕山方へ行。枕山留主、不逢。晴湖方へ行。白竜モ居り候。八ツ時迄遊ふ。七ツ時前、帰殿ス。

(十一月) 十四日 晴。

指痛故、放業。門跡え参詣。此朝、父様、門跡様御面会有らせられ候。

(十一月) 十五日 晴、夜雨。

指痛故、(放)業。夕、近藤真鋤来。西本願寺輪番明覚寺来。父様、千浪方へ行レ候。夕景、帰来。此日、山井さま御出立延引。

(十一月) 十六日 雨。

終日放業。

(十一月) 十七日 雨。

放業。此日、大嘗会御神事ニ付、市中大賑敷可致様御沙汰ニ付、市中ダシ出候へとも、中大困り也。此夜、沢さまえ行。御香、又□香遊し候而、私宝船あたり候。夜五更ニ臥。雨未止。

\*ダシ(山車)

(十一月) 十八日 雨、亦止。

此日も市中賑々敷候。殿様御見物ニ成らせられ候。私も御供也。

(十一月) 十九日 晴。

此朝五ツ時、殿様御参也。大御馳走、七ツ時御帰殿也。此日、市中如神事。

(十一月) 廿日 晴。

市中、如神事。殿様、小学校え成らせられ候。私、父様、夕、林屋隠居え行、一更後ニ帰殿。

(十一月) 廿一日 晴。

私、朝、大沼え行、昼時、帰殿。父様、山本、浅草え参詣、七ツ時、帰殿。此日、山井さま御出立也。姉御殿え紙包事伝ル。

\*事(言)

(十一月) 廿二日 晴。

朝、沢山卜御同道ニテ、大嘗宮拝見ニ行、夫ヨリ九段曲馬ニ成らせられ候。日暮、帰殿也。

(十一月) 廿三日 晴。

終日揮毫。夜三更ニ臥。詩作。

(十一月) 廿四日 晴。

終日揮毫。加藤来。

(十一月) 廿五日 晴。

殿様、学校え成らせられ候処、此日、学校廢され候。偶然也。父様、千浪方へ行レ候。日暮、帰殿。此日、京師姉御殿え文出す。

(十一月) 廿六日 晴。

終日揮毫。加藤、木村鳳祥来。此日、京師より報知来、則廿二日発行也。夜三更二臥。此日、入寒。君公、万里様え成らせられ候。

(十一月) 廿七日 雨。

終日揮毫。此日、浪花井上氏え報知、又姉御殿え報知ス。本田潤三来。夜、出火。夜、初雪。

(十一月) 廿八日 雨、晴。

朝六ツ前ヨリ門跡え参詣。御門跡様自御真教聴聞いたし候。終日揮毫。三更二臥。

(十一月) 廿九日 晴。

朝、小学校川勝金之助来。安藤家来加藤光徳寒中ニ来り候。父様、千浪へ行レ候。日暮、御帰殿也。私、終日揮毫。夜五更二臥。

(十二月)

十二月朔日 晴。

終日揮毫。夜三更二臥。

(十二月) 二日 晴、夜雨、復雪。

終日揮毫。

(十二月) 三日 晴。

終日揮毫。夕景、真福寺来。

(十二月) 四日

終日揮毫。此日、[箇包](#)、外寒中見舞、京姉御殿え出ス。

\*[箇包](#)(小包)

(十二月) 五日 晴。

終日揮毫。此日、大坂井上氏、辻氏え寒中見舞出ス。

(十二月) 六日 晴。

朝、三島達三郎来。此日、三条様より御使来。昼後、私参殿いたし候。

(十二月) 七日 晴、朝雪。

終日揮毫。扇明亭来。五山来。此日、沢竹丸様御下りにて、夜、殿様、父さま、私参り、三更ニ御帰殿也。此日、本殿ヨリ報知有。

(十二月) 八日 晴、極寒。

終日揮毫。杉山富女来。此日、京姉御殿え三日限にて文出ス。

(十二月) 九日

終日揮毫。

(十二月) 十日 晴。

終日揮毫。

(十二月) 十一日 晴。

此日昼前より三条様え行。昼時、御前さま成らせられ候。二位御局様、一の侍典様、二の侍典様、外ニ呉葉さま、よし川さま也。中山様、徳大寺様、万里小路様也。私、席上書画ス。大く御悦さま也。四ツ時、皆々御帰也。私一宿ス。此日、大坂井上氏より金二百両手形来着。此日、風早様来。

此日、三島達三郎、笹本幾波、須山雅之丞、三和有常。

\*侍典様(典侍様) \*侍典様(典侍様)

(十二月) 十二日 晴。

昼時、帰殿也。父様、島田新七方え金二百両手形引替、即五両札ニテ落手いたし候。此日、放業。

(十二月) 十三日 晴、大風、極寒。

朝より表二番町風早家ニ父様ト同道ニテ行。此度御婚姻ニ付、御頼之義御断ニ参り候処、をして御頼み故、先々承知いたし候。此日、二位御局様、一の侍典様、二の典様、呉葉さま、よし川さまより結構の御しなく戴候。此日、田中精太郎来。

\*義(儀) \*をして(押して) \*侍典様(典侍様) \*典様(典侍様)

(十二月) 十四日 極寒。

此日、三条様え御文庫返上、呉葉さま迄文出、大坂井上氏え文出、京御殿えも文出ス。明十五日風早様え行候はつ（つ）の処、沢さまより呼ニ来候て、此度の風早行皆々可止と仰せられ候故、先々止る。

\*はつ（管）

(十二月) 十五日 晴。

父様、千浪方え行レ候。私、昼後より石山様え御襖揮毫ニ上り候。一宿。

(十二月) 十六日 雪五寸斗積。

終日毫ス。

(十二月) 十七日

終日、揮毫。

(十二月) 十八日

終日揮毫。

(十二月) 十九日

御障子腰十六枚落製。此日、帰殿の積り、須田氏ヨリ招レ候て、石山様、皆々さまト御同様ニて須田氏へ行、二更ニ帰る。

(十二月) 廿日

朝ヨリ帰殿。風邪ニテ臥籠。

(十二月) 廿一日

風邪ニテ臥。

(十二月) 廿二日

休業。

(十二月) 廿三日 晴。

此日より伏原様え御襖揮毫ニ上り、一宿。

(十二月) 廿四日

終日揮毫。御襖三間四枚、二間四枚ニ金沢八景之図落製。又三間四枚、老間二枚之御襖、水墨四君子之図ニかゝる。又一宿。

(十二月) 廿五日

七ツ時迄ニ落製ス。夫ヨリ石山様え上り、少々認物ニて一宿。

(十二月) 廿六日

昼時、帰殿ス。

(十二月) 廿七日

終日、**大いそかしくくらし**候。此日、京師え文出ス。

\*大いそかしく(大忙しく) \*くらし(暮らし)

(十二月) 廿八日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 廿九日 大雪。

此日、御買物二行。

(十二月) 三十日 此日も同断。

終日こしらへ物ニかゝり候。私、終夜不寐。

\*こしらへ(拵へ)